

そんな深海の生き物をガラス越しで見ただけでも貴重なのに、直接触れてしまう本格的タッチング水槽は全国でも飛びぬけて驚異的。しかも夏場は磯のおなじみの生き物に切り替えるので1年で2つのパターンの生き物を楽しめます。

さらに、タッチング水槽の裏側には小型水槽を20個並べて、冬季は形原の深海漁師さんたち協力の下、他の水族館ではめったに見ることのできない深海の奇妙な生き物を展示します。おそらく初めて見る生き物の目白押しになります。

水槽裏の飼育員の作業スペースは壁で隠さず「あえてすべて見せる」ように作り、裏側まで全部見れます。また飼育員が生き物を解説するスペースもありますので、気さくな飼育員たちと生き物を通して交流することもできますよ。



**パワーアップした  
竹島水族館**  
(戸館)

ここだけの話、竹島水族館には他の水族館では見ることのできない生き物がたくさんいたのです。そしてそのほとんどが深海生物です。竹島水族館に来た事がある人なら分かると思いますが、スタッフ

んからもらってくるといふあれです。しかし、深海生物というのは飼育するのに色々と条件があり、今まではその貴重な生き物を一部しか展示することができませんでした。

でも、これからは違います。さわりんぶーる(タッチング)の名前ですよ)に20個もの小型水槽が併設されたのです。この水槽はタッチングで触れる深海生物をじっくり紹介できるほか、今までは見せる事のできなかつた小型の深海生物も一緒に展示できるのです。そう、これからは堂々と深海生物の情報発信基地として活躍できるのです!!今、深海生物は非常に注目されている生き物です。ぜひ皆さんも竹島水族館で深海生物を見て、触って学んでみませんか?



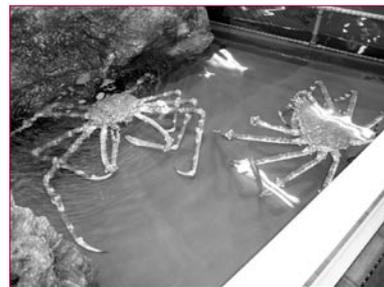
「さわりんぶーる」に併設した20個の小型水槽。ここにも深海生物を展示。



**ほかにもいろいろ  
リニューアル**  
(戸館)

今回、さわりんぶーるを新設するに当たり、館内の水槽も一新することにしました。とはいってもお金はさわりんぶーるに使っているの、スタッフが案をだしての展示入れ替えです。リニューアルでこだわったのは「お客さんに長く見てもらえる水槽」にすること。あんまり水族館らしいテーマじゃないんですが、その裏には「きつかけづくり」というのがあります。どんな水槽でも、興味を持って注意深く観察してみれば、そこから何かを得たり、知ろうとするきつかけになると思っています。自然だつて一緒に、注意していなければ足元の花にも気づきませんかね。

ですので、長く見てもらえるように色々と工夫を凝らしてみま



タカアシガニなどにもさわられます!

た。お客さんからしたら、なんというわけでもない水槽でも、「奥行があるように見せるには?」「この魚を一番魅力的に見せるには?」「どうやって見栄えのいいレイアウトにするか?」など、いろいろと考え、他のスタッフからもアドバイスをもらいました。ですから、ぜひ一度足を運んで水槽もろぞいてみてください。今までの竹島水族館にはない発見があるかもしれせんよ。

